

全国ビルメンテナンス協会会員企業から期待のホープが登場

Hope

横田尊

Takashi Yokota

株式会社浄美社

執行役員 プロジェクト開発部

高田純也

Junya Takada

株式会社浄美社

執行役員 営業・業務統括部

お客さまに喜んでいただくために、

「Re」クリエイト！」していく。

ビルメンに留まらない文化企業として成長します。



「ビルメンテナンス子ども絵画コンクール」に毎年多くの作品を応募。幼児・小学生の部を通じ金賞、銀賞、銅賞を受賞している浄美社の皆さんと絵を描いたお子さまたち。

——浄美社さんは全国ビルメンテナンス協会の「ビルメンテナンス子ども絵画コンクール」(以下、「こども絵画コンクール」)への参加をはじめ、お客さまたちへの積極的なコミュニケーション活動など、社会貢献やビルメンテナンス企業としてのメッセージ発信に力を入れていますね。

高田 他の会社と比べて、特に弊社の活動が際立っているのかどうかは分かりませんが、そういった社会貢献・発信に力を入れているのは確かです。

浄美社は、病院や老人ホームなど、医療関係施設の清掃が仕事の半分くらいを占めています。この病院清掃を行うためには、病院清掃受託責任者の資格を取らなければならないのですが、そのための講習で講師をし

ている弊社の副社長が社会貢献への思いが深いため、自ら率先して「こども絵画コンクール」(絵画コンクール活用事例は10ページ)や、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

——社会奉仕の思いが根底にあるのかもしれないね。

横田 そうかもしれません。

「こども絵画コンクール」への参加も、けっこう長いと思います。高田 お客さまから受託している業務の結果が、清掃品質が高い、きれいで快適だということだけでなく、お客さまたちが浄美社のスタッフに出会った際に「なんだかとても気持ちが良い」「朝から元気になるな」といった言葉がいただける。そういったところが、弊社の目指すところではないかと考えています。

ですから、そのために普段からお客さまたちに、浄美社の思いを知っていただきたくて、たとえば「レターセット」を作って、お客さまの社内でコミュニケーションツールとして使っていただく。そんな取り組みもしています。

——ビルメンがお客さまにレターセットを差し上げるのですか。ビルメンの営業販促ツールとして考えると、一風変わっていますね。



横田 そう思われますか(笑)。

でもこれは単なる販促商品ではありません。それをもたらったお客さまに驚きと感動を感じていただきたい。そこがコンセプトなのです。ですからいわゆるノベルティ業者に発注するのではなくて、京都にある嵯峨美術大学とコラボレーションしまして、浄美社が考えたコンセプトをそちらの美大生たちと一緒にアイデアを出し合いながら、デザインしてもらって作っているのです。

最初はカレンダー、その次の年



「お客さまの建築物空間をキレイにするだけでなく、お客さまの社内の活性化にも貢献したい」と語る、浄美社の高田氏(上)と横田氏(下)。顧客のコミュニケーション・メンテナンスにも創造力を広げることこそ、三方よしの精神の基本。

INTERVIEW WITH

Hope

がレターセット、さらにマスクングテープも作りました。

高田 たとえば影絵をモチーフにしたカレンダーを作った時などは、お客さまに影絵カレンダーをお家にお持ち帰りいただいて、お子さまと一緒に楽しんで笑顔になっていただけたらな、と。浄美社のコミュニケーションツールによって、お客さまも、その社員とご家族の皆さまも、笑顔になっていただけたらうれしい。というのが、私たちの思いなのです。

そうすることによって、浄美社

からお客さまへ、お客さまからご家族や社会へ、社会から浄美社へ、と三方よしのコミュニケーションの輪が巡って来るだろうと考えています。

——このカレンダーも面白いですね。カレンダーの一枚一枚が、赤い糸で繋がっています。

横田 これも浄美社とお客さま、清掃や暮らしへの思いが繋がっていることを表現したものです。

高田 表面的な営業活動ではなくて、もつと深いところで浄美社の思いに共感していただいて、「浄美社って良いねえ」と心の部分でお客さまと繋がっていきたいわけです。

横田 続けていくうちに、次はどんなツールが届くのだろうと、皆さんとても心待ちにしてくれるようになりまして。

——しかし、これだけの活動を続けていくのは、なかなか大変なのではないですか？

高田 「Reクリエイティブ」というのが弊社のステートメントなのですが、これは美しい環境づくりの企業から、より深く心に届く「キレイ」とは何かを考えつづけ、本当の価値を実現させる文化企業であり続けたい、という弊社の社長の思いに根差した言葉です。

です。ので総合ビルメンテナンス事業とともに、弊社ホームページの開発や更新、広報活動、コミュニケーションツールの開発なども手掛けるプロジェクト開発部という専門の部署があり、そこには先ほどお話しした嵯峨美術大学の出身者もおります。

横田 私も多摩美術大学という大の出身で、プロジェクト開発部を任されています。

高田 話は横道に逸れますが、私はこの会社で人材育成を強化していきたい思いがあつて、それを以前社長に伝えたと「大学院に行つて勉強して来なさい」と、大学院に行かせてもらい人材育成のノウハウを学びました。

そしてその時の勉強が実り、今度社外で人材育成セミナーを開くのですが、セミナーに来ていただいた方からは対価をいただきますので、これも「Reクリエイティブ！」の思いから生まれ出た、浄美社の新しい取り組みの芽の一つになると思っています。

——素晴らしい取り組みですね！

高田 今後の浄美社の姿がどうあるべきなのかを考えなさいと、社長によく言われるのです。そしてそれを考え、実行していくのは社長ではなく、我々であり、その後



1. 毎年数回、清掃ボランティア活動を通して、社員の自己啓発とともに社会へ「キレイ」を発信する、浄美社の清掃ボランティア活動「KODOの風」。業務ではない清掃活動ならではの、従業員のコミュニケーション活性手段としても有効だ。2. 浄美社の社内報「ODOK NEWS(オードック・ニュース)」。グループ全体の各所でどんな取り組みが行われ、お客さまや社会にどのように評価されているのかを、分かりやすく見やすく紹介している。3. 手を組み合わせて影を作り、それが何を表した形であるのかを考え、当てる。親子のコミュニケーションを深めるために役立つ影絵をモチーフにした、浄美社のカレンダー。作り手の思いがよく伝わる、もらってうれしくなるコミュニケーションツールだ。4. 浄美社のプロジェクト開発部では、嵯峨美術大学の教授と美大生たちとのコラボレーションによって、カレンダー、レターセット、マスキングテープなどの発想力豊かなコミュニケーションツールを作り、自社の顧客活動に活かしている。見習いたい手法だ。

Corporate Information

株式会社浄美社

【本社】〒616-8143 京都府京都市右京区太秦川所町7-100 [TEL] 075-871-3623 [FAX] 075-881-3376 [創業] 昭和30年3月 [設立] 昭和41年2月 [代表取締役] 滋野好史 [従業員数] 1,286名 (グループ会社を含む) 2018年7月現在 [営業品目] 総合ビルメンテナンス業務：建築物等の清掃管理業務、設備保守管理業務、保安警備業務、環境衛生管理・測定業務、工事・点検業務、総合案内業務(受付・電話交換)、関連物品の販売、人材派遣 [URL] <http://www.jobisha.co.jp/index.html>

輩たちなんだと。
横田 「数字を追いかけているだけではダメだ」とも言われます。我々の事業の目的は、お客さまに喜んでもらうために対価をいただくことです。
その方法としてビルメンテナンス事業を主に行っていますが、この活動を続けながらも社員の中からは新しい思いも芽生えてきています。ですから今の高田の例だけでなく、他にも浄美社の新しい取り組みが今後発展していくことは大いに有り得ます。
高田 「こども絵画コンクール」や社会貢献活動、コミュニケーションツール開発などは、会社の新しい芽を生み出すための土壌です。これまでのビルメンテナンス業に留まらず、楽しみながら感動をお届けできる文化企業として成長していきたいと思っています。